

令和3年度 金沢錦丘中学校 学校評価中間報告

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
1 中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りをもち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑥ 肯定的評価85% 【判定:B】 (昨年度:B +1%)	・全体として、A「よくあてはまる」と回答した生徒は41%であり、昨年度とあまり変化はない。学年ごとに見ると、1年生では、「よくあてはまる」は50%であり、2・3年生が35%程度である。 ・1年次より、挨拶の意義や良さを、伝える指導を引き続き行うとともに、できている生徒を全体の場で価値付け、認めていく指導を積極的に行っていく必要がある。
		提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑦ 肯定的評価93% 【判定:A】 (昨年度:B +10%)	・昨年度よりも、A「よくあてはまる」と回答する生徒がどの学年においても、10%程度増加した。昨年度との比較は、参考にはならないが、生徒自身がフォーサイトを基に見通しを持ち家庭学習等に取り組んでいる成果と言える。教師側の指導も引き続き行っていきたい。
	1-2 健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑧ 肯定的評価90% 【判定:A】 (昨年度:A -4%)	・保護者アンケートで、88%、教職員アンケートで78%の肯定的評価があり、部活動を通しての人間的な成長に対して肯定的に評価していることが分かる。
	1-3 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	/	今年度第1回の校内英語検定が5月に実施され、2級7名、準2級27名、3級42名、4級27名計103名が受検した。
	1-4 朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書が好きである。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑨ 肯定的評価85% 【判定:B】 (昨年度:B +2%)	・一昨年度からも含めて、少しずつであるが、肯定的評価が増加している。図書委員会や国語科の地道な取り組みの成果が現れていると考えられる。 ・今後も図書委員会や国語科を中心に読書活動の更なる充実に努めたい。
		朝読書に、集中して取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価95% 【判定:A】 (昨年度:A +5%)	・この項目も、読書好きとともに、肯定的評価が一昨年度から上昇傾向にある。併せて今年度は、否定的評価も減少している。 ・朝読書の意義の再認識や、落ち着いた学校生活のスタートとして大切な取り組みであることをさらに実感できるよう指導を継続していきたい。
	1-5 望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート(教育活動④) 肯定的評価100% 【判定:A】 (昨年度と同じ)	・定期的な迷惑調査や生活アンケートで生徒の声を拾い、些細なことでも見逃さない体制ができている。また、教員間の情報交換も随時、職員室等でなされ、生徒の悩みや迷惑行為の早期発見ができている。 ・積極的生徒指導や事後対応等についても生徒指導主事を中心に組織的に対応し、保護者に対しても丁寧に対応している。
	1-6 生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑪ 肯定的評価80% 【判定:B】 (昨年度:B -1%)	・1年生が89%、2年生が75%、3年生が77%と昨年度とほぼ同じ評価である。A「よくあてはまる」と回答する生徒は、各学年で3割程度ある。 ・自信を持っていない生徒や自己肯定感の低い生徒への個に応じた支援や手立てを工夫するなどの対応が必要である。

2	道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にできる豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。	2-1	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にする心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育くむ。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にする心が深まったを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑧ 肯定的評価88% 【判定:B】 (昨年度:A -4%)	・昨年度から4%減少したが、A「よくあてはまる」と回答した生徒は5%増加している。また、2年生の肯定的評価が昨年度から-13%と大幅に減少している。 ・2年生を中心にこれまで以上に、道徳教育の推進をはかり、特に否定的評価をしている生徒も巻き込んだ指導を心がける必要がある。
		2-2	総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑨ 肯定的評価82% 【判定:B】(昨年度:B +1%)	・昨年に引き続き、肯定的評価は80%を越え、A「よくあてはまる」と回答する生徒も49%となっている。 ・今年度は、コロナの影響で行動は制限されるが、行事等、実施が可能なものもあるため、できる範囲でのキャリア教育を工夫し充実させたいと考える。
				キャリア的行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価90% 【判定:A】(昨年度:B +2%)	・どの学年においても、A「よくあてはまる」と回答する生徒が昨年度と比べ増加している。 ・今年度は、昨年度よりもできることも増えているため、内容の更なる工夫・充実をはかりたい。
				将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑪ 肯定的評価81% 【判定:B】(昨年度:B +1%)	・肯定的評価は昨年度と比べ大きな変化はない。ただし、傾向として、A「よくあてはまる」と回答する生徒は、学年が上がるたびに低下している。 ・生徒の成長に伴い、現実が見えてきた分、不安を感じたり、自信を失ったりすることが考えられるが、それでもキャリア教育を通じて、今の自分がどのような考えで、どう行動することが未来や将来に繋がるかを考えさせ、少しでも行動に移せるかを指導する必要がある。
		2-3	学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組ませ、自主的・実践的な態度を育てる。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑫ 肯定的評価90% 【判定:A】 (昨年度:B +1%)	・肯定的評価は昨年度と比べ大きな変化はない。ただし、A「よくあてはまる」と回答する生徒は、どの学年においても昨年度より3~6%増加している。 ・現在の取り組みの成果が少しずつ現れている。今後も活動への指導とともに、活動を評価していく場の設定など工夫を続けていきたい。

令和3年度 金沢錦丘中学校 学校評価中間報告

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準		
学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-1 生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート 【教師：教材研究】 肯定的評価100% 【判定：A】 (昨年度：A +6%)	・今年度の研究の重点である「考える軸を明確にした指導」と「ICTの効果的な活用」を意識した授業作りに対して意欲的に取り組んできた成果である。今後も「自律的に学ぶ生徒」の育成を目指し、教材研究等進めていきたい。
	3-2 付きたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート 【教師】 肯定的評価100% 【生徒】 肯定的評価82% 【判定：A】 教師：昨年同様、生徒：-8%	・話し合い活動が、授業の中で積極的に取り入れられていると生徒が回答するとともに、教師側の意識も高い。 ・ICTの活用が推進されている教科も増えているが、話し合い活動やICTの活用を通して、考えを広げたり・深めたりすることができたと感じる生徒が増えるような手立て・工夫を引き続き考えていく必要がある。
	3-3 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教える、学びきる指導を行う。	個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑨) 肯定的評価71% 【判定：C】 (昨年度：C -7%)	・肯定的評価は71%と、昨年度と比べ、7%減少した。また、A：「よくあてはまる」が昨年度は39%であったのに対し、今年度は0%となっている。 ・夏期休業を利用した補習やサマースクール等の取り組みは行ってきたが、2学期以降にも下位層に焦点を置いた手立ての工夫が必要である。
3 確かな学力の育成学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-4 論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑥) 肯定的評価94% 【判定：A】 (昨年度：A -1%)	・昨年度と同様の結果であった。 ・今年度の研究の重点である「考える軸(見方・考え方)を明確にした指導」を中心とした、論理的思考につながる言語活動について教師が意識して授業に取り組んできた結果と思われる。引き続き工夫・改善を行っていきたい。
	3-5 批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑧) 肯定的評価89% 【判定：B】 (昨年度：A -11%)	・昨年度100%から、-11%の減少である。A：「よくあてはまる」と回答した教師も50%から18%と減少した。 ・今年度、研究では「深い学び」の部分に重点を置いており、批判的思考力などを基にした授業の深まりを意識していたため厳しい評価になっていると思われる。先の論理的な思考力・表現力とともに批判的思考力の育成が「深い学び」につながっていくため、引き続きその指導の工夫等研究していく必要がある。
	3-6 高校の学習内容を視野に入れた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑫) 肯定的評価94% 【判定：A】 (昨年度：B +10%)	・肯定的評価が94%と昨年度比10%増加している。各教科において、高校との繋がりを意識した授業づくりの成果と言える。 ・コロナによる制限はあるが、実際の中・高生徒間の交流機会を増やし、キャリア教育も含めたさらなる指導の工夫が必要である。
	3-7 自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート⑥肯定的評価67% 保護者アンケート③肯定的評価72% 教職員アンケート肯定的評価62% (生徒について⑥) 【判定：C】昨年度：B 生徒：+6%、保護者：-2%、 教職員：-17%	・生徒及び保護者の肯定的評価は昨年並みであったが、教職員の肯定的評価は-17%であった。 ・再度、家庭学習の重要性など、キャリア教育等も絡めた指導を行い、「学習の記録ファイル」や「フォーサイト」などを活用しながら、計画的・自主的に学習を進められるよう工夫する必要がある。

4	教職員の働き方や業務改善に関する意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。	4-1	長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を確保する。	時間外勤務時間月80時間を超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0~2人 C 2~4人 D 4人以上	時間外勤務時間 月80時間を超える教職員の数 月平均6.5人(4~7月) 【判定:D】 (昨年度:B 月平均-4.5人)	・昨年度の月平均2人から今年度は6.5人に増加した。 ・年度当初に示された時間外勤務削減の方針の再確認、最終退校時刻、月一回の定時退校日、部活動の休養日等を確認し全職員で実施できるよう、声かけを行っていく。
		4-2	中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	保護者アンケート⑩ 肯定的評価95% 【判定:A】 (昨年度:A +1%)	・昨年度に引き続き肯定的評価は、高い現状を維持している。特にA:「よくあてはまる」が昨年度と比べ+4%と、ほぼ毎日のホームページの更新等を行ってきた成果と言える。 ・引き続き中高一貫校の現状を伝えられるように努力を続けていきたい。
				秋の学校説明会参加者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満		コロナの影響により、夏のオープンキャンパスは中止となったが、6月に行った「春の学校公開」では、保護者224名、児童212名、計436名の参加者が、授業を参観した。
				適性検査の受験者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満		